



平成 30 年 8 月 1 日
大阪管区気象台

近畿地方の7月は記録的な高温となりました

近畿地方の7月は、太平洋高気圧の勢力が強まり、晴れた日が多く、暖かい空気が流れ込みやすかった影響で記録的な高温となり、1946年の統計開始以来、地域平均の平均気温において、第1位の高温となりました。

1 7月の近畿地方の平均気温（平年差） [参考] 近畿地方の気象台の平均気温

順位 (高い方から)	平年差 ()	西暦
1位	+2.4	2018年
1位	+2.4	1994年
3位	+1.9	2004年
4位	+1.6	2017年
4位	+1.6	2001年

観測点	実況値()	平年値()	平年差()
彦根	28.5	25.6	+2.9
京都	29.8	26.8	+3.0
大阪	29.5	27.4	+2.1
神戸	28.8	26.8	+2.0
奈良	28.8	25.8	+3.0
和歌山	28.8	27.0	+1.8

長期間観測している観測点（11地点）の平年差を平均した値です。

2018年の値は速報値です。そのため、後日変更となる場合があります。

彦根、京都、舞鶴、大阪、神戸、豊岡、姫路、洲本、奈良、和歌山、潮岬

2 近畿地方における平成30年7月の天候の特徴

上旬は、梅雨前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった所がありました。中旬から下旬にかけては、太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなり、暖かい空気が流れ込みやすくなりました。また、近畿地方は7月9日ごろに梅雨明けしたと見られ、平年より12日早く、昨年より4日早くなりました（速報値）。

このため、近畿地方の平均気温は、7月中旬が平年差+3.4、下旬が+2.1とかなり高く、ともに1961年の統計開始以来、極値を更新しました。

また、7月の1か月を通しての近畿地方の平均気温も平年差+2.4とかなり高くなり、1946年の統計開始以来、第1位の高温となりました。

問合せ先：気象防災部 地球環境・海洋課 季節予報担当
電話 06-6949-6653 FAX 06-6949-6160